



安心・安全 住みよいまち末恒 まちづくり連絡協議会だより

平成31年1月発行
第17号

発行
末恒地区まちづくり
連絡協議会 事務局
鳥取市伏野1986-32
末恒地区公民館内
TEL : 0857-59-1147
FAX : 0857-59-1150

「平成最後の年に寄せて」

末恒地区まちづくり連絡協議会
会長 田中雅勝

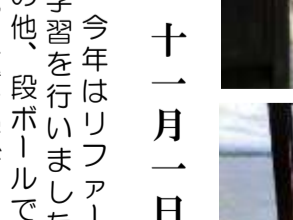
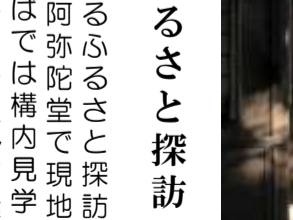
明けましておめでとうございます。地区の皆様のご多幸とご健勝を心より祈念し、変わらぬご愛顧とご支援をお願い申し上げます。

さて、昨年は癒し・ふれあい・あるある探し事業を更に展開し、かねてよりの念願であった「郷土誌すえつね」を七十年ぶりに発行する事ができました。これを記念して地区ふれあいフェスティバル(大文化祭)で記念講演会を開催しました。事前に新聞紙上に掲載されたこともあり内外に興味と関心を呼び、外部からの来場者もあり満席となりました。しかし、これで終わりではありません。これを契機に礎として活用し、「神話の郷・癒しの街」である郷土に誇りと愛着を持ち、更なる再発見と有る物を活かし、「人と自然に優しい調和のとれたまちづくり」へとつながっていくことを祈念しています。

一方、昨年の世相を表す漢字として「災」が選ばれました。国内外の皆さんの大半が未曾有の自然災害を続々と体験し、自然に対する畏敬の念を抱かされたことと思います。既に、新年早々熊本地震と鹿児島地震が発生し、巷に言われる大規模な南海トラフ地震も懸念され、予測不能の状況下にありますが、人知を遥かに超える自然の猛威を防ぐ手立ては現在の科学にはありません。まずは「人命」を第一とする各個人の避難行動・防災意識の向上や防災対策の実践、各町内会、地域での総合的な取り組みの継続が最重要課題となります。

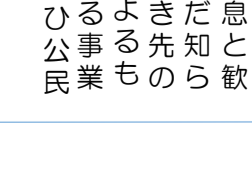
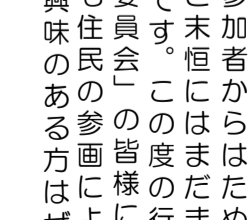
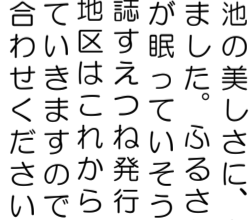
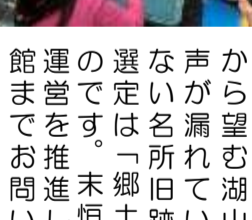
一方、人災と言える「災い」事例が内外で頻発した年でもありました。不正・捏造・改竄・虚言・暴言・隠蔽・ルール無視の強行と看過できない事態が発生し、世情の信頼を失い、「協調と共生の理念」が一気に失われ、先が見えない「読めない混沌とした時代」

に入ってしまったと憂慮しています。このような中、流行語大賞を受賞したカーリーに我々の心に沁みましました。お互いを信じ、確かめ納得し、一体となって笑顔で「そだね」と発して目標に向かって突き進む彼女たちはメダルを獲得し、マイナーなカーリングをメジャーに押し上げ、更には我々に感動を与えてくれました。また、昨年は鳥取市が「暮らしてみたい田舎ベストランキング」で見事に総合一位を含む頂目別三冠王に輝き、鳥取県もガイジンポットの2019年度版の外国人が訪れるべき日本の観光地で見事に一位に輝きました。もはや、右肩上がりの繁栄などあり得ません。現状維持や無関心から脱して発想を変え、ないものねだりから、あるもの探し、あたりまえからの再発見と感謝など自前の特徴を活かした身の丈に合った「協調と共生」の風土とコミュニティの再構築(創生)が、今こそ求められているのか。



地区ふれあい大文化祭 10月27日(土)・28日(日)

今年度は三年に一回の公民館まつり拡大版として行いました。一日目は毎年地域の人が楽しみに行っている地区社協によるふれあい餅つき大会や地区体育会によるピンゴ大会の他に「郷土誌すえつね」の発行に合わせ「末恒あるある物語」郷土誌すえつね編集余話」と題して編集長の田中久大氏による発行記念講演会を開催し、八十名余の参加者で大研修室が埋まりました。二日目は十八組による芸能ステージの発表と十七の模擬店、五つの催事で大変にぎやかに執り行われました。実行委員の皆様、担当長の皆様のおかげで支障なくご協力に心より感謝を申し上げます。



郷土誌すえつね発行に寄せて

まちづくり連絡協議会事務局
末恒地区公民館 館長 岩田光明

今年度、まちづくり協議会では念願の「郷土誌すえつね」を十月に発行しました。編集委員の皆様には大変お世話になりました。特に田中久大編集委員長には原稿の整理から編集に至るまで中心となって取り組んでいただき大変ご苦労をおかけしました。一昨年の九月から十回に及ぶ編集会議を開催し、十月のふれあい大文化祭(公民館まつり)には田中編集委員長を講師に発行記念講演会を開催しました。満員の会場には新聞を見た他地区からも参加され好評を得ました。発行に当たって特に心配したのは予算でした。「県のトットリスム補助金申請をしては」と森本主事から提案があり倉吉未来中心に出向いて、まち協の田中会長と森本主事がプレゼンテーションを行い三十七万円の補助金を得ることができました。更に、まち協・自治会・公民館が協力して不足分を地区の皆様方の貴重な会費を使わせていただきました。お蔭さまで末恒地区を知るハイブリともいえる貴重な郷土誌を作成することができ



ました。地区のみならず心よりお礼申し上げます。「郷土誌すえつね」を末恒地区の多くの人々に読んでいただき末恒を理解して頂きたいと思っております。何処にいても故郷に愛着と誇りを持ち、自信をもってそれぞれの人生をたくましく生きる。そんな人々の地域になることを願っています。公民館では、まちづくり連絡協議会を初め各種団体とさらに連携を深め郷土誌を活用して子どもたちの健全育成や地域の人の交流機会を提供し、安心安全な共生地域を目指して活動に取り組みでまいります。地域の皆様の一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



リファレンス



湖山池講座



三津 阿弥陀堂



第三回ふるさと探訪 十一月一日(木)

三回目となるふるさと探訪。今年度はリファレンスなばと三津の阿弥陀堂で現地学習を行いました。リファレンスなばでは構内見学、段ボールで写真立てを作る体験などを通して環境問題を学びました。少しの手間できれいな環境をつくる、適正な量を心がけてごみ自体を減らすなどゴミを出す側のモラルについて考えさせられました。午後は昼食を挟んで湖山池再生協議会の遠藤浩明氏を講師に招き「湖山池講座」を開きました。湖山池周辺の今・昔の写真を示されるとあちらこちらから歓声が上がり昔を懐かしむ参加者で大変盛り上がりました。講座を受けた後はいよいよ現地、三津の阿弥陀堂へ。当日は湖山池の美しい秋晴れの空。八角形のお堂の中からは望む湖山池の美しさに、参加者からはため息と歓声が漏れていました。ふるさと末恒にはまだまだ知らない名所旧跡が眠っています。この度の行き先は「郷土誌すえつね発行委員会」の皆様による末恒地区はこれからの住民の参画による事業運営を推進していきますので興味のある方はぜひ公民館までお問い合わせください。

「すえつね健康ウォーク」 やってみたい。

末恒地区体育会
会長 谷口 由紀夫

昨年の十一月十八日秋晴れの元、末恒地区の体育会と健康づくり推進員会及びまちづくり連絡協議会の共催による「平成三十年度すえつね健康ウォーク」を開催しました。

前年に実施したウォークラリーとは趣を変え、今年のテーマは「のんびりウォーク」で地元の良いところ再発見！てくてくのんびり自由人」と銘打ちました。

当日は子どもからお年寄りまで約五十人が参加、末恒地区公民館から白兔道の駅を折り返し、往復約5kmの秋真っ盛りの白兔路を楽しみました。

インストラクターによる準備運動と歩き方指導の後、いよいよスタート。家族連れ、友だち交流、マイペースなノルディックスタイルなど各々が思い思いに地区公民館を出発しました。

往路は伏野神社を経由し、ハマナス自生地を通り白兔道の駅を目指した後「白兔神社コース」と「気多の前展望広場コース」に分かれて地元の名所を巡ります。

復路はお腹と体力の残量を考慮して寄り道しないで伏野集落を抜けお弁当の待つ末恒地区公民館にゴールします。

全員で昼食をとりながら歓談と休憩をした後お待ちかねのビンゴ大会（本番？）で、さらに盛り上がりました。

このイベントを通じて地区民の健康増進はもとより、地域の魅力再発見と共に地域間・世代間の交流と親睦を図ることができました。地元を知り、人と繋がることで、より末恒を好きになり、さらに地域が活性化して、安心安全で住みやすい地域づくりに貢献するものと信じています。

まだまだ不十分な所や改善点がたくさんあります。来年以降も多くの住民の方に喜んでもらえるよう、知恵と汗を絞っていきます。

最後にになりましたが、企画から準備・運営に携わっていただいたスタッフの皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。



すえつね健康ウォーク

2018. 11. 18 (日)

公民館→伏野神社→はまなす自生南限地
↑白兔神社or気多の前←白兔道の駅←



大盛り上がりのビンゴ大会！



がまの穂綿サロン

まの穂綿サロンは今年度も大盛況でした！がまの白寿苑とは工作を通しての交流や夏にはやまめのつかみどりへ参加したり、十二月にはサンタクロースや水戸黄門に扮した福祉専門学校の子生たちが授業の一環として参加したりとバラエティーに富んだ内容で始終笑い声に包まれていました。



昨年の災害で 気付かされたこと

末恒地区自主防災会連絡会
世話人 竹本 芳宏

新年あけましておめでとうございませう。昨年は集中豪雨や地震など想定外の（？）局地的な自然災害が多く発生し、鳥取市においても大雨特別警報が発令され、避難指示（緊急）が出された年でもありました。幸いにも本地区の居住地域には大きな被害がなく安堵しておりますが、山間部においては溝川奥（三谷川沿い）の小さな林道が崩落したり、西の川のため池周辺の道路に亀裂が入ったりと普段目に付きにくいところで被害が発生しました。今のところは山間部の林道や水路、畦畔などの被害に留まっていますが、放置すればやがては居住地域にも甚大な被害が生じるのではないかと危惧しております。



最近の災害は地震を除けば「忘れたころにやってくる災害」ではなく、目の行き届かなくなってきた山間部からの、例えば「忘れられた地域からの災害」が多く、自然のしつぺ返しともいえる状況にあるとさえ思われます。地区連絡会としては、数年来の課題である自助・共助を基本とした広域的な避難訓練や避難所開設及び運営訓練に取り組みと共に、これらの「忘れられた地域からの災害」を未然に防ぐ取り組みも大切であると気づかされた一年でした。

自主防災活動

1年を振り返って



豊かな自然に恵まれた「自然の里 内海中」が誇る旬の味

しーちゃん
ふきのとう
味噌

注文を受け付けます！

380円(150g) 2月25日(月)まで受付
限定200個

自然の里 内海中
代表 上野育雄 TEL:090-3744-6947

新年度の体制スタート！

平成三十一年度
まちづくり連絡協議会総会開催
一月二十六日(土)

総会では前年度の事業報告や新年度の事業計画、役員人事の承認が行われました。三十一年度も継続して地区防災、あるある探し、居場所づくり、子ども参加型と四事業を中心に二回発行することが採択されました。三十一年度の役員体制は左記の通りです。

役職	氏名	所属	役職	氏名	所属
会長	田中雅勝	自治連	監事	武田 幸	個人
副会長	竹本芳宏	自主防		米村昌三	自治会
	川本 修	社協	事務局長	岩田光明	公民館
	谷口由紀夫	体育会	事務局	入江三枝子	公民館
	竹本英行	老人ク	事務局(会計)	森本綾子	公民館
	山本孝久	青少協	事務局	山根敬子	公民館
	長坂則翁	交安協			